

# 会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書  
平成 30 年 9 月 4 日 提出

## 1. 視察概要

会派名	自民党おおさき市民会議
視察者名	相澤孝弘、相澤久義、早坂憂
視察日	8月31日
視察先	福島県 りょうぜんこどもの村、プリンス・ウィリアムズ・パーク
出席者	りょうぜんこどもの村: 佐藤隆幸 副総合支所長、斎藤義則 事務局長 プリンス・ウィリアムズ・パーク: 橋本信人 議事係長、馬場広元 えぼか所長 矢吹誠司 福祉事務所長

## 2. 視察内容

視察項目	子育て支援施設の運営・管理状況について
視察内容	<p>りょうぜんこどもの村では運営・管理状況の説明の後、屋内施設で行われているワークショップについて、そして地形を利用した大型滑り台や登山道等、屋外施設の概要を説明頂いた。震災後利用者が激減した事、そしてこれまでの年月で震災前の7~8割まで回復させたこと、そのために施設の大幅改修や料金の見直しなど様々な工夫がなされていた。その中で、近くに小学校跡地を利用した子育て支援施設があることを情報提供頂いたので、そちらも見学。</p> <p>RYOZEN ちびっこひろばの名称で、旧泉原小学校の体育館を再利用し、エアトラックやサイバーホイール等未就学児でもケガをしにくい遊具を設置し、職員を2名配置して運営していた。</p> <p>お昼は近くに最近オープンしたばかりの道の駅があるとの情報を頂いたので、見学をしながら当施設の食堂を利用させて頂いた。</p> <p>午後からは本宮市役所を訪問し、渡辺市議会議長にお迎えを頂き、プリンス・ウィリアムズ・パークの名称が決まるまでのご説明を直接頂いた後、運営・管理状況について説明頂いた。最大の関心事だった「なぜ利用料が無料なのか」については震災復興特別交付金を活用しているためであり、今後2年程度の見込みで有料化するという話だった。施設へと移動後、まずは屋内施設を見学し、ジュニアアスリートエリアやプレイルーム等、運動しながら遊べる区画、そしてダンシングサンドという手につきにくく抗菌が施された特殊な砂を利用した室内砂場を拝見した。</p> <p>屋外では漕ぐのに少し工夫が必要な3・4輪車を使ったサーキット、そして遊具の難易度や対象年齢によって様々なゾーンに分かれたスマイルキッズパークと英国庭園を見学。最近では市内よりも市外、そして県外の利用者が増えているという説明があり、その背景には子育て世代向けの旅行情報誌への掲載が大きく作用しているのでは、という見解だった。また、施設を管理している健康福祉部の「えぼか」にも屋内の子育て支援施設があるとのことだったので、併せてご案内を頂いた。</p> <p>「えぼか」とは笑顔でぼかぼかという意味で、旧本宮診療所の跡地利用として、住民の健康作りと地域福祉の新たな拠点を目指して整備された施設とのことだった。施設内では保護者同伴前提で、就学前の子供のみを対象とした子育てサロンが運営されていた他、物販やカフェコーナー、本や遊具が設置された市民交流ラウンジ等が配置され、視察当日も多くの利用者がいた。</p> <p>拝見した施設のほとんどで空気による柔らかい遊具が利用されていた他、ボランティアや臨時職員による見守りのサポートが行われ、小さな子供達を大切にしている姿勢、そして年配のボランティアの生きがい作りへと繋がる活動を確認し、県内住みやすさランキング1位に選ばれた事にも大きく頷ける内容だった。</p> <p>今回拝見・拝聴した内容をしっかりと持ち帰り、今後の大崎市の子育て支援事業への政策提言に積極的に活用したい。</p>
他会派との合同実施	なし

以上